

学生確保の見通し等を記載した書類
目次

1	学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	P2
ア	本学の現状把握・分析	P2
イ	地域・社会的動向等の現状把握・分析	P3
ウ	歯科衛生学科の趣旨目的、教育内容、定員設定等	P3
エ	学生確保の見通し	P4
オ	学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	P7
2	人材需要の動向等社会の要請	P13
	(1)人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	P13
	(2)社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	P13

学生確保の見通し等を記載した書類

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア 本学の現状把握・分析

大学および短期大学の各学部・学科ごとの過去5か年の入学定員に対する入学者比率は、以下のとおりである。

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	平均
大学全体	0.95	1.09	1.02	0.84	0.79	0.94
健康科学部	0.92	1.09	1.00	0.90	0.87	0.96
健康栄養学科	1.02	1.13	0.95	0.79	0.89	0.96
看護学科	1.05	1.18	1.06	1.25	1.12	1.13
心理学科	0.96	1.34	1.38	0.78	0.78	1.05
医療福祉学科	0.60	0.76	0.76	0.73	0.57	0.68
こども教育学部 こども教育学科	0.99	0.95	0.93	0.53	0.69	0.82
キャリア形成学部 キャリア形成学科	1.08	1.23	1.21	0.92	0.69	1.03
短期大学部 ライフデザイン学科	1.11	0.93	1.01	0.55	0.82	0.88

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大による影響で、2021年度募集活動において高校訪問など現場への直接的なアピールの機会や進学相談会、オープンキャンパスといった進路決定を大きく左右する募集イベントが急遽オンライン開催や中止になるなど、受験生との対面接触の機会が極端に減り、2021年度入学者数は看護学科以外の全学科において定員未充足となり、大学・短期大学部ともに入学定員未充足に陥った。翌2022年度においてもその影響は継続し、2年連続での入学定員未充足に至っている。

しかし、過去5か年の入学定員充足率を平均して見ると大学全体では94.0%となり入学定員未充足ではあるものの、適切な定員管理ができているといえる。短期大学部においては、コロナ禍における募集活動の影響を受けつつも、2022年度は対前年149%増となり回復したが、受験生の四大志向も進んでおり、非常に厳しい募集状況と言える。

こうした状況のなか、大学・短期大学部ともに、競合校分析をもとに抽出した学科の魅力を大学案内やウェブサイト、オープンキャンパスなどで高校生にわかりやすく伝える努力を続けるとともに、京滋地区での本学のアセットの優位性を活かすべく、新たに「健康・未来創造キャンパス構想」を掲げ、地域社会のウェルビーイングを実現する大学としての新たなブランドを構築すべく学校改革を進めている。具体的には、大学では健康科学部と看護福祉リハビリテーション学部（2023年4月届出予定）の2学部体制で専門性を深め、健康を多角的に捉えられる教育研究体制を構築するとともに、作業療法士養成課程も開設（2023年4月届出予定）し、リハビリテーション分野を強化する計画である。短期大学部においても、歯科衛生学科を開設（定員の一部を既存のライフデザイン学科から移行）することで、大学、短期大学部が多職種連携に取り組める体制を構築する。こうした改革を大学・短期大学部をあげて実施することで、志願者の回復、

入学定員充足率の改善を実現したい。

イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析

「文部科学大臣指定（認定）医療関係技術者養成学校一覧（令和3年5月1日現在）」【資料1】によると、令和3年5月1日時点で、短期大学の歯科衛生士学校は全国に16大学（公立1大学、私立15大学）存在している。本学が所在する京都府においては、歯科衛生士養成課程は専門学校3校しかない。隣県の滋賀県においては専門学校1校のみ、奈良県においても専門学校1校のみで、養成校が非常に少ない。かつ、大学・短期大学の養成校は存在しない。

日本私立学校振興・共済事業団「平成30(2018)～令和4(2022)年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」によると、私立短期大学の平成30(2018)～令和4(2022)年度の5か年における入学定員充足率の平均は、全体では87.53%であるのに対し、歯科衛生学科を含む保健系では95.65%と比較的高い水準となっている。「一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 歯科衛生士教育に関する現状調査の結果報告（令和4年6月）」【資料2】によると歯科衛生士養成課程を有する学校種別ごとの志願倍率は、全体で1.13倍であるのに対し、短期大学は1.4倍になっている。入学定員充足率は全体が88.9%に対し、短期大学は95.0%と、学校種別で比べると短期大学の水準が最も高い。また、【資料3】によると令和3年度の歯科衛生士養成課程における歯科衛生士の求人件数は86,505件で、求人人数は144,203名、就職者に対する求人倍率は22.6倍であり、過去5年で最も高い水準であり、歯科衛生士が不足していることは明らかである。人材需要の見通しの項目で後述する「京都・滋賀エリアを中心に実施した人材需要アンケート調査」でも、本学が養成する歯科衛生士の採用意向について、調査対象全体の6割を超える172箇所（65.6%）が「採用したい」とし、その上で提示された採用可能人数は合計282名であったことから、本学が立地している京都・滋賀エリアにおいても歯科衛生士の不足が顕著であることが明らかである。

ウ 歯科衛生学科の趣旨目的、教育内容、定員設定等

現代社会における歯科衛生士のニーズは、従来の歯科衛生士の業務に加え、より高度で多様な知識と技能が求められるようになってきている。例えば、超高齢社会に伴う口腔機能管理の専門的知識や技能や、基礎疾患等の基本的理解とチーム医療における多職種との連携・協働するための知識とコミュニケーション能力の修得は必須である。さらに、国民皆歯科検診導入に向けた動きが高まるなか、すべての年齢層で行うことのできる歯科予防処置や歯科保健指導、小児の口腔機能発達不全への対応と発育の理解など、新たな医療情報を積極的に取り入れ自ら学ぶ態度を持ち、自ら健康課題を見つけ出し論理的思考によって解決策を導き出そうとする態度や能力も求められる。

このようなニーズに応えるためには、コミュニケーション教育などの医療に必要な教養教育を実施し、歯科衛生学科以外の医療系学部を有し多職種連携教育が可能な大学あるいは短期大学での教育が望ましい。

本学では全学共通教育としての「京都光華の学び」や「仏教の人間観」を開講している。さらに併設大学の健康科学部に看護学科、心理学科、医療福祉学科（社会福祉専攻、言語聴覚専攻）、健康栄養学科（管理栄養士専攻、健康スポーツ栄養専攻）といった数多くの医療・福祉に係る専門職養成課程を設置し教育連携を行うことにより、歯科衛生士に求められるニーズに応える能力を養成することが可能である。

本学科では、従来の歯科衛生士に求められる能力育成のカリキュラムを充実させるとともに、口腔機能とその生後発育、歯周病などに関わる高度な専門知識と技能をもち、チーム医療や地域

包括ケアを担うための基礎疾患等の基本的な理解とコミュニケーション能力や自ら学ぶ能力を有し、地域社会が抱える健康課題に対し、職業倫理感と責任感をもって真摯に取り組むことができる歯科衛生士を育成し、現代社会のニーズに応じていくことを目指す。

定員設定については、教育の質を担保して教育効果を最大化するための人数として 35 名×2 クラスの 70 名の入学定員とした。学生納付金については、充実した教育研究を可能とする水準について十分な精査を行い、近畿地区において歯科衛生士養成課程を持つ関西女子短期大学歯科衛生学科（大阪府柏原市）と、大手前短期大学歯科衛生学科（兵庫県西宮市）の初年次納付金を参考にしつつ、学生の経済的な負担の軽減を最優先に考慮し、初年次納付金合計を低く設定した。学生募集においても競争力をもった学生納付金であると考えている。【資料 4】

エ 学生確保の見通し

A. 学生確保の見通しの調査結果

学生確保の見通しを客観的に検証するため、学生確保の見通し調査（高校生アンケート調査）を第三者機関に委託し実施した。【資料 5】

「高校生アンケート調査」の実施概要は以下のとおりである。

調査内容	本学が令和 6（2024）年度に設置することを構想中の歯科衛生学科における学生確保の見通しを検証するために、高校生アンケートを実施した。アンケート項目は全 8 問で、全て選択肢式とした。
調査実施時期	令和 4（2022）年 9 月～令和 5（2023）年 1 月
調査対象	令和 6（2024）年度の大学入試を受験する可能性が最も高い 高校 2 年生 （令和 6 年 3 月卒業予定者）をアンケートの対象とした。
実施高校	京都光華女子大学／京都光華女子大学短期大学部に志願者・入学者が多い京都府、滋賀県、大阪府、奈良県、兵庫県を中心とした高校にアンケート実施を依頼し、120 校（京都府 39 校、滋賀県 16 校、大阪府 35 校、奈良県 6 校、兵庫県 10 校、和歌山県 2 校、近畿圏以外の都道府県 12 校）より実施協力を得た。
実施人数	7,310 人

高校生アンケート調査では、本学の歯科衛生学科の特色・学費・アクセスなどを具体的に示した上で、受験意向について回答を求めたところ、254 人が歯科衛生学科を「受験したい」とした。また、受験意向を示した 254 人に対して、合格した場合の入学意向について回答を求めたところ、136 人が「合格した場合、入学したい」、114 人が「合格した場合、併願校の可否により入学を検討する」とした。（本回答は、高校卒業後の希望進路を尋ねる質問項目で「進学」と答えた回答に絞っている）

「入学したい」とした高校生は 136 人（京都府 31 人、滋賀県 15 人、大阪府 36 人、兵庫県 39 人、奈良県 2 人、和歌山県 1 人、その他 12 人）であり、歯科衛生学科が予定する入学定員 70 名を上回る結果となった。さらに「合格した場合、併願校の可否により入学を検討する」と回答した 114 人（京都府 35 人、滋賀県 17 人、大阪府 40 人、兵庫県 11 人、奈良県 1 人、その他 10 人）を加えると、歯科衛生学科への入学を具体的に検討している者は計 250 人となっている。

なお、文部科学省「学校基本調査（令和 4 年度）」によると、本学の学生確保の基盤である京

都府、滋賀県、大阪府の高校数は全日制と定時制の合計で 418 校あり、令和 4 年度時点での高校 2 年生の女子生徒は 49,207 人在籍している。【資料 6、資料 7】本高校生アンケート調査は当該 3 府県においては 90 校 5,605 人の高校生の入学意欲について測定した結果に留まっていることから、今後の広報活動を通して本学の歯科衛生学科が広く認知されることで、アンケート結果を上回る志願者確保は可能であると推察される。

B. 新設学科等の分野の動向

旺文社の受験情報誌「蛍雪時代」や大学受験ポータルサイト「パスナビ」、医療系学校進学ポータルサイト「看護医療進学ネット」または各大学ホームページの掲載データを元に、平成 30 (2018) 年度～令和 4 (2022) 年度の短期大学 歯科衛生系学科における志願者・受験者・合格者数の推移を調べてみると、全体の志願倍率(志願者÷入学定員)は、平成 30 (2018) 年度 1.4 倍、平成 31 (2019) 年度 1.2 倍、令和 2 (2020) 年度 1.0 倍、令和 3 (2021) 年度 1.2 倍、令和 4 (2022) 年度 1.3 倍と推移している(志願者非公表の学科は集計対象から除外)【資料 8】。本学の所在する近畿地区エリアの短期大学では、令和 4 年度の志願倍率は大手前短期大学が 2.1 倍、関西女子短期大学が 1.2 倍であり、他エリアよりも高い傾向にある。

C. 中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向等

令和 4 (2022) 年度入学生の出身地は、京都府・滋賀県・大阪府トータルで 79.7%を占めており、これらの地域が圧倒的に多い【資料 9】。この地域には、阪急沿線の向日市・長岡京市・高槻市・茨木市、京阪沿線の枚方市・寝屋川市、JR 沿線の亀岡市・大津市・草津市など京都・大阪のベッドタウンとして成長している衛生都市郡が含まれている。【資料 10】はリクルート進学総研マーケットリポート (Vol.114 2023 年 2 月号) 18 歳人口予測を基に作成している。本学が歯科衛生学科の設置を予定する令和 6 (2024) 年度の 18 歳人口(女子)の数値を 100 とすると、令和 15 (2023) 年度には全国で 95.2%まで人口が減少する。また本学所在地の近畿地方では、全国水準を上回る 93.7%の減少率となり、長期的には本学も少子化の影響は免れない。一方で、上述した本学沿線の衛星都市群の減少率を見てみると 96.6%であり、近畿及び全国水準よりも減少幅は緩やかであることが言え、さらに増加傾向に転じている自治体もあることから、少子化の影響は少ないことが推測され、長期的かつ安定的に学生確保を行うために開設当初より少子化進展を踏まえた積極的な募集活動を展開することが重要と認識している。

また、京都市の市街地にある本学への交通アクセスは、JR 京都駅からバスで 25 分、JR 丹波口駅からバスで 8 分、阪急西京極駅より徒歩で 7 分、京阪五条駅よりバスで 20 分、地下鉄烏丸五条駅よりバスで 15 分であり、学生の通学条件に優れている。この点からも学生募集に効果的に作用すると考えられる。

D. 競合校の状況

本学が所在する近畿地区において、歯科衛生士養成課程を設置する 4 年制の大学は梅花女子大学看護保健学部口腔保健学科(大阪府茨木市)、大阪歯科大学医療保健学部口腔保健学科(大阪府枚方市)、神戸常磐大学保健科学部口腔保健学科(兵庫県神戸市)の 3 校、3 年制の短期大学は関西女子短期大学歯科衛生学科(大阪府柏原市)、大手前短期大学歯科衛生学科(兵庫県西宮市)の 2 校のみで、京都府、滋賀県においては専門学校が 4 校あるのみであり競合は比較的少ない。

令和 4 年 5 月 1 日時点における全国の短期大学 16 校の歯科衛生系学科の充足状況を調べてみ

ると、収容定員合計は3,360人で在学者数合計は3,059人、収容定員充足率は91.0%となっている。近畿地区の短期大学に絞ってみると、関西女子短期大学歯科衛生学科 93.3%、大手前短期大学歯科衛生学科 106.4%で、この短期大学2校の平均は98.8%となり、全国平均よりも高い水準である。また、令和4年（2022）年度入試における全国16短期大学の志願倍率の平均は1.3倍であり、入学定員充足率平均は94.6%である。近畿エリアの2短大に絞ってみると、志願倍率1.6倍、入学定員充足率は111%と全国平均よりも高く、かつ入学定員を充足している。このことから近畿地区における短期大学の歯科衛生士養成課程は全国平均よりも高いニーズがあると言える。

また、4年制大学の梅花女子大学看護保健学部口腔保健学科の収容定員充足率は98.6%、神戸常磐大学保健科学部口腔保健学科は95.7%と前述の2短大の平均充足率よりも低く、大阪歯科大学医療保健学部口腔保健学科は学科ごとの収容定員充足率のデータ非公表であった。また、令和4年（2022）年度入試における当該3大学の入学定員充足率平均は90.5%であり、本学が所在する近畿地区においては、歯科衛生士養成課程は大学よりも短期大学ニーズの方が高いことがうかがい知れる。【資料11】

E. 既設学部等の学生確保の状況

収容定員充足率（2022年5月1日時点）0.7倍未満の学科には、大学の健康科学部医療福祉学科（68%）と短期大学部のライフデザイン学科（68%）の2学科が該当する。

当該2学科の過去5か年の入学志願状況等（志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、定員充足率）は【資料12】に記載のとおりである。

健康科学部医療福祉学科は、社会福祉専攻と言語聴覚専攻の2専攻で構成される学科であるが、令和6（2024）年度に現在の健康科学部から看護福祉リハビリテーション学部福祉リハビリテーション学科に改組し、さらにリハビリテーションの専門職である作業療法士の養成課程である作業療法専攻を新たに設置することを予定している。本改組はこれからの社会ニーズに即し、あらゆる健康状態の人々のケアを中心とした専門職を養成する学科で構成する学部として、より専門性の高い学びが実現する。さらに作業療法専攻を新たに開設することによりリハビリテーション分野の幅が広がり、学部学科横断型の多職種連携教育により看護、福祉、リハビリテーション、栄養、心理を網羅した多職種連携の実質化につなげ、より高度で多様な知識・技能を修得した社会で求める医療・福祉人材の輩出に貢献するものである。また、学部・学科名に福祉とリハビリテーションの名称を入れることで、高校生に学びの内容や将来のビジョンをイメージしやすく、よりわかりやすく伝えることを意図しており、本改組のタイミングに合わせ募集広報活動を強化することで入学定員充足率の向上を目指す。

既設の社会福祉専攻については、専攻の学びの魅力を多彩な出口領域と連動させ分かりやすく広報することで、2019年度から徐々に入学志願者数が増加に転じ、2020年度は入学定員充足率93%にまで回復していることから、引き続き、多様な出口領域を訴求する広報活動に力を入れるとともに、福祉リハビリテーション学科として医療・リハビリテーション分野で必要とされる福祉人材育成を特色化し、新規層の開拓を図ることで定員充足に努めていく。また、言語聴覚専攻については、2022年3月卒業生の国家試験合格率が2年連続全国の新卒合格率平均を上回っており、高い合格実績とともに本学の魅力である寄り添うサポート体制を丁寧に伝えていくとともに、他学にない本学独自の学びの環境として2021年に本学キャンパス内に開院した「光華もの忘れ・フレイルクリニック」を活用した学内実習・現場体験のメリットを訴求していくことで入学志願者数の回復に努めている。

また、短期大学部ライフデザイン学科については前述のとおり、令和6（2024）年度の本学科の開設に伴い入学定員を100名から85名に減員することで入学定員充足率の適正化、是正に努めていく。さらに、学科の特色としてプレゼンテーションやグローバルなどの教養と、8分野からなる専門分野を自由に組み合わせて学ぶ幅広いカリキュラムに加え、地域・企業との連携プロジェクトをはじめとした課外活動の充実化を図り、社会から必要とされるコンピテンシー能力育成を高校生に魅力的に伝え入学志願者数の回復に努めるとともに、高大接続の観点から連携校との接続入試の導入など、安定的な志願者獲得のパイプの形成に積極的に努める。

オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

本学における学生募集のための広報活動は入学・広報センターが中心となり、各学科・専攻の教員と事務局全部署の協力を得て全学的に広報活動を展開している。安定した学生確保を目指し、学生募集状況を分析した上で募集広報計画を策定して、計画に沿って募集広報活動に取り組んでいる。

令和6（2024）年度入試に向けた本学の学生募集広報活動の具体的な取り組みは、主に以下が挙げられる

1. 大学案内、パンフレット、大学HP、SNSによる情報発信
2. 受験媒体等への広告掲載、マスメディア広報の展開
3. 進学相談会、高校内ガイダンスへの参加
4. オープンキャンパスの実施
5. 高校訪問の実施
6. 京都光華高校との内部連携

1. 大学案内、パンフレット、大学HP、SNSによる情報発信

本学では毎年4月に新年度の大学案内を30,000部作成して、本学への資料請求者やオープンキャンパスなどのイベント参加者に配付している。また、後述の高校訪問でも大学案内を使って、本学の学びの特色などを高校教員に伝えている。令和6（2024）年度学生募集に向けては、Well-Beingの実現を目指す本学の「健康・未来創造キャンパス」構想による改革の大きなトピックスの一つとして歯科衛生学科の開設について取り上げ、今後必要とされる歯科衛生士の姿や現状の求人倍率といった社会的ニーズの高さ、本学科の教育の特色や就任予定の教員のメッセージ、さらに実習提携先病院などを掲載するなどして、歯科衛生士の必要性や本学科の魅力が高校生、保護者、高校教員に伝わるように努力している。また、認可後には入試情報を掲載したパンフレットを別途作成して、本学の資料請求者に送付することを予定している。

なお、資料請求者への発送に関しては、令和4（2022）年度からAIによる接触者出願分析を導入し、接触者の行動履歴を管理・分析し、発送対象者を来校や出願の可能性が高い接触者へセグメントするなどして、限られたリソースでより効果が上がるよう工夫を行っている。

大学HPについては、大学・短大公式ホームページ、受験生サイト、オープンキャンパス特設サイト、各学科・専攻オリジナルサイト、教員の研究領域を紹介する「究め人」など、コンテンツの充実化を図っている。特に各学科・専攻から選出された情報発信担当教員が更新を担当する各学科・専攻オリジナルサイトにおいては、毎月アクセス解析・分析を行い、会議にて情報交換、協議を行うことで、内容の充実化や効果的かつ積極的な情報発信について全学的に取り組んでいる。またユーザビリティの向上を目的としたページ改修を毎年3月から6月にかけて順次取り

組んでおり、閲覧者が知りたい情報にわかりやすくたどり着けるような工夫を欠かさず行っており、年々閲覧者数は増加の一途をたどっている。【資料 13】

また、令和 6（2024）年度に予定している本学科の開設をはじめとした本学の「健康・未来創造キャンパス構想」に関する特設ページを令和 4 年度から公開しており、そのコンテンツの一つとして歯科衛生学科ページ（<https://www.koka.ac.jp/dental/>）を公開している。本ページでは本学科の教育の特色を伝えるだけでなく、歯科衛生士への社会的ニーズの高さや歯科衛生士の働きやすさなど、仕事としての歯科衛生士の魅力を発信している。大学・短大公式ホームページのトップページにバナーを設置するだけでなく、メニューバーに常設するなど本学 HP 来訪者の目に留まる工夫を施し、興味度を向上させ、志願者の獲得を狙う。令和 4 年 4 月 27 日のページ公開から令和 5 年 3 月 13 日時点でページビュー数 5,093 件、ページ訪問数は 4,296 件となっている。

SNS に関しては Instagram、LINE、Twitter など、高校生がよく利用するメディアを活用して、情報発信をおこなっている。特に女子高校生の活用率の高い Instagram (@kyoto_koka_) においては、学生のキャンパスライフを日常風景からよりリアルに伝えるコンテンツとして、止めどなく発信し続けており、令和 5 年 3 月 13 日時点でフォロワー数 2,587 人であり、多くの人々へ本学の情報が拡散される仕組みが構築されつつある。

2. 受験媒体等への広告掲載、マスメディア広報の展開

業界最大手である（株）リクルートの「スタディサプリ」と（株）進研アドの「マナビジョン」に歯科衛生学科紹介ページを設けるなど、Web を中心とした受験媒体に受験生に有益な情報としての広告を積極的に掲出する。また、令和 5 年 2 月から FM 番組へのコーナー提供、3 月と 5 月に TVCM の放映、交通広告、WEB 広告（Instagram、LINE、Youtube などの SNS 広告も含む）などのマスメディア広報を使った広報展開を予定しており、メインターゲットである受験生（高校 3 年生・既卒）に加え、世間一般にも本学の動向について広く告知し、知名・認知度の向上、ひいては志願者の獲得を図る。

3. 進学相談会、高校内ガイダンスへの参加

高校生や保護者に直接コミュニケーションできる場として、進学相談会や高校内ガイダンスに積極的に参加している。毎年 170 件前後の進学相談会に参加しているが、歯科衛生学科においては医療系志望の高校生に特化した進学説明会が行われていることから、これらについても積極的に活用している。ブースに来ていただいた方々から本学について率直な感想や意見も聞くことができる場でもあることから、有意義な場として重視していく。また高校内ガイダンスにおける模擬授業の際には学科教員が直接高校生へ分野の学びの興味深さや社会ニーズについて伝える機会として積極的に参加し、本学への志願者を獲得できる重要な機会と考えている。

4. オープンキャンパスの実施

オープンキャンパスは募集活動の最重点イベントと位置付けて実施している。2023 年度は土日、祝日に年間 9 回開催する。さらに年間 2 回はナイトオープンキャンパスとして、部活動などで土日のオープンキャンパスへの参加が難しい高校生や仕事帰りの保護者などをターゲットに開催する。大学・短期大学合計での目標人数を 2,500 名（保護者を含まない高校生のみの人数）、受験学年（高校 3 年生）に絞ると 1,700 名に設定して、全日程で全学科の説明会を実施し、各学科・専攻のミニ講義、外部講師による志望理由書の書き方講座や入試対策講座など、受験生ニ

ズに即したイベントを企画・実施して、本学への理解を深めてもらい、出願に繋げていく。オープンキャンパス当日は全学科・専攻から在学生在が学生スタッフとして参加し、学びの楽しさや充実のキャンパスライフについて、高校生に近い視点であまねく伝え、志願意欲の醸成に一役買っている。

なお、オープンキャンパスの内容や集客方法については、各学科・専攻から選出された教員とワーキングチームを結成し検討を重ね、運営方法やイベントを毎年ブラッシュアップしており、来場者（受験学年）の出願率は毎年 40%を超えている。参加者の満足度の高さがこの出願率に繋がっていると考えているが、オープンキャンパス参加からの出願をさらに促すべく、引き続き内容、集客方法の見直しを進めていく。【資料 14】

5. 高校・塾訪問の実施

高校進路指導および進学塾の現場に対し、本学の「健康・未来創造キャンパス」構想実現に向けた改革内容を中心に、新たに設置する歯科衛生学科の学びの特色や魅力を周知し、生徒の進学先の一つとして選択肢に検討してもらうこと、さらに、高校・塾現場の状況をリアルタイムに把握し、得た情報をより良い学校づくりに生かしていくため、高校・塾訪問を実施する。高校訪問は高校現場の進路指導上のスケジュールに合わせ年間 5 期（1 月末～3 月、4 月～5 月、6 月～7 月、8 月下旬～10 月、11 月下旬～12 月）に分け、効率的に訪問活動を実施している。

訪問エリアは、近畿圏はもちろんのこと、西日本を中心としつつも全国エリアをターゲットにし、令和 6（2024）年度学生募集活動に向けては、入学・広報センター所員のみならず、事務局全員体制で訪問する拡大訪問を年 3 回計画し、年間のべ 4,000 件の訪問件数を目標に掲げ、全学あげて取り組みを強化していく。さらに宗門関係校である真宗大谷派系列高等学校のある北海道・長野県の学校や全国で唯一 18 歳人口が減少しない沖縄県へも戦略的に訪問を強化し、歯科衛生学科を広く告知する。

塾訪問は年間 2 期（4 月～5 月、9 月～10 月）の期間に京都・滋賀・大阪の進学塾を中心に訪問活動を実施していく。【資料 15】なお、歯科衛生学科の開設にあたっては、本学への志願、入学がある高校を中心に進路指導部宛に、本学および歯科衛生学科に関する意見・要望をヒアリングした。【資料 16】このような高校教員、高校生のニーズを的確に捉えて、高校現場への情報発信を強化していく。

6. 京都光華高等学校との内部連携

進学率 90%を超える本学併設高等学校（京都光華高等学校／女子、普通科、入学定員 200 名）からの内部進学については、低学年からの内部進学促進イベントや高大接続事業の充実化、さらに入学後に単位を認定する高大連携提供科目の受講促進など、高等学校との連携を強化することで、内部進学率の向上を図っている。

過去 5 か年（2018 年度～2022 年度）の大学・短期大学部への内部進学者数は平均 53.4 人、高等学校卒業者数に対する内部進学率平均は 36.7%と安定的に内部進学者を獲得できており、引き続き併設高等学校との連携を強化し、新たに設置する歯科衛生学科の学びの魅力を併設校の生徒にわかりやすく伝えることで、内部進学を促進して学生の獲得を図る。【資料 17】

上記以外に、「収容定員に対する申請年度の 5 月 1 日現在の在学者数の割合」が 0.7 倍未満の学科において、学生確保に向けた直近 3 年の具体的取組状況については、下記のとおりである。

●医療福祉学科

【2020年度】

- ・社会福祉専攻においては医療・地域・こどもの3分野で活躍できる社会福祉士養成をPRするとともに、一般企業での活躍の道を示し、出口の幅広さを訴求した。
- ・言語聴覚専攻においては、西日本で唯一言語聴覚士を目指せる女子大として、さらに言語聴覚士合格者数近畿ナンバーワン（26名）をアピールし、志願エリアの拡大を目指した。
- ・両専攻ともに、こども食堂などのボランティア活動や、オレンジサポーターズなど地域貢献活動など実践的な学びの豊富さをアピールした。

以上の取り組みの結果、社会福祉専攻では入学定員充足率が0.93へと改善し、医療福祉学科の定員充足率は0.76と下げ止まった【資料12】

【2021年度】

- ・社会福祉専攻においては、引き続き3分野で活躍できる社会福祉士養成に加え、就職率100%の実績を大きくアピールした。また、社会福祉士国家試験、精神保健福祉士国家試験の合格率が全国平均を上回り、資格取得に向けたサポート体制が整っている点も訴求した。
- ・言語聴覚専攻においては、他学科との連携によるチーム医療の学びの充実と、現役の医師・言語聴覚士による専門的な指導を受けることができることを学科の教育の特色とし、言語聴覚士国家試験の受験に向けた手厚いサポート体制も訴求した。
- ・他学にない本学独自の学びの環境として2021年に本学キャンパス内に開院した「光華もの忘れ・フレイルクリニック」を活用した学内実習・現場体験のメリットを訴求した。
- ・両専攻ともに、前年に引き続き、学生の実践的な学びの場の豊富さをアピールするとともに、少人数の寄り添う教育を前面に押し出しアピールを行った。

以上の取り組みを行うと同時に、入学定員を各専攻10名ずつ減員し、定員管理の適正化を図ったが、新型コロナウイルス感染症の蔓延、緊急事態宣言下での休校措置などにより、オープンキャンパスや進学相談会、高校訪問などといった対面接触の機会を喪失し、志願入学者が減少し、入学定員充足率も0.73と減少した。【資料12】

【2022年度】

- ・競合比較をもとにしたSWOT分析を行い、学科の強み弱みを把握し、各広報媒体でのアピールポイントを研ぎ澄まし抽出した。
- ・社会福祉専攻においては全国平均を上回る国家試験合格状況をエビデンスに少人数での手厚い指導をアピールすると同時に、卒業時アンケートによる学生満足度の回答9割以上という点をもとに本学で学ぶ安心感を訴求した。
- ・言語聴覚専攻においてはオレンジサポーターズやレインボープロジェクトなどの本学独自の学生の課外活動や社会貢献活動などの実践的活動をアピールすることで本学での学びの期待感を醸成する広報に努めた。また国家試験合格率が全国平均を超え、卒業後の支援など、サポート体制の手厚さをアピールした。
- ・両専攻とも学科オリジナルホームページにおける発信を強化し、教職協同で日常的なキャンパスライフの発信とともに社会的トピックスを取り上げるなど話題の発信にも努めた。

- ・ 年内併願制入試に自己推薦選抜基礎学力チャレンジを新設し、受験生の進路決定の早期化に対応すべく受験機会の創出に努めた。
- ・ 年内専願制入試に自己推薦選抜自己アピールチャレンジを新設し、クラブや課外活動に熱心に取り組む高校生の活動を評価し合否を判定する制度を新設し、受験機会の創出に努めた。

以上の取り組みを行ったがコロナ禍2年目の影響から、大きく志願者並びに入学者の回復には至らなかった。しかし、前述のとおり、令和6(2024)年度の看護福祉リハビリテーション学部福祉リハビリテーション学科開設などの改組を推し進めることで、より専門性の高い学びの提供、さらに専門職養成の幅広さを生かした多職種連携の実質化につなげることで、学科のさらなる魅力化を図るとともに、社会福祉士国家試験、精神保健福祉士国家試験、言語聴覚士国家試験の合格率がそれぞれ全国平均を上回る結果をキープしており、Webや対面広報を融合させ募集広報活動を一層強化することで、志願者並びに入学者の回復を見込んでいる。【資料12】

●短期大学部ライフデザイン学科

【2020年度】

- ・ 「あなたの得意がきっと見つかる！」というキャッチコピーのもと、4つの教養科目群と6つの専門科目群から学生それぞれの興味関心に合わせた多彩な学びができることをアピールし、就職実績98%をエビデンスに出口の安定感をアピールした。
- ・ 高校生“夢”デザインコンテスト題し、全国の高等学校の生徒から京都をテーマに広くデザイン作品を募集し、デザイン企画を専門とする本学専任教員をはじめとする専門家の審査を行い表彰するイベントを実施し、本学の認知度の向上に努めた。
- ・ 短大卒後の進路として就職だけではなく、併設大学への編入や留学など幅広い選択肢があることをアピールした。

以上の取り組みの結果、入学定員充足率1.01へと改善し、定員充足を達成した。【資料12】

【2021年度】

- ・ 「2年間で4年分の成長！」というキャッチコピーのもと、社会人力、就職力、実践力の3つのカテゴリーの力を多彩な開講科目と資格取得支援、就職率の高さをエビデンスに四年制大学の学生に負けず劣らぬ成長度の高さを広くアピールした。
- ・ AP事業(文部科学省平成26年度大学教育再生加速プログラム)で採択された学習成果の可視化といった先進的な取り組みを高校現場へ周知し、教育の質の高さをアピールした。
- ・ 高校生が大学生の実際の授業を体験的に受講するWCV(ウィークリーキャンパスビジット)や、学科単独開催の短大オープンキャンパスを全学開催とは別日程で実施し、学科の学びを体感する機会創出に努めた。
- ・ 併願制の入試において、併設の四年制大学の学科からの複数志願が可能にする制度の整備を行い、四大志望の受験生の取り込みを図った。

以上の取り組みを行ったが、上述の医療福祉学科同様、新型コロナウイルス感染症蔓延による受験生や高校教員との対面接触の機会喪失の結果、入学定員充足率0.55と定員を大

きく未充足する結果となった。【資料 12】

【2022 年度】

- ・ 競合比較をもとにした SWOT 分析を行い、学科の強み弱みを把握し、競合する専門学校との学びの違いを明確化するとともに、各広報媒体でのアピールポイントを研ぎ澄まし抽出した。
- ・ 社会で必要とされる力として知識・学力では測りしれないコンピテンシー能力、すなわち LDC（ライフデザインコンピテンシー）の育成を学科カリキュラムの柱と据え教育の質の高さを訴求した。
- ・ アクティブラーニングや PBL 形活動の豊富さをアピールすることで、入学後の学びへの期待感を醸成し、本学への志願意欲の向上に努めた。
- ・ 総合型選抜において、入学・広報センター職員及び在学生の先輩と高校生徒が 3 者で事前に相談する機会を設け、入学後のミスマッチの防止に努めた。さらに早期（6 月）から実施することで、専門学校との進路選択で迷っている高校生へ短大での学びの魅力を伝える機会を創出することで、志願に結び付けることに努めた。
- ・ 学科の学びを体験できる場としての WCV（ウィークリーキャンパスビジット）の 2 年目の開催や、学科独自オープンキャンパスの開催、学生広報チームによる Web や SNS を用いた積極的な情報発信、などあらゆる手立てを講じ、ライフデザイン学科での充実した 2 年間をとめどなく発信し続けた。

以上の取り組みを行い、コロナ禍 2 年目の影響を受けつつも、入学定員充足率が 82% まで回復した。前述のとおり、令和 6（2024）年度の歯科衛生学科の開設により、定員移行を行い、入学定員を 85 名にすることで、定員管理の適正化に努めるとともに、学科カリキュラムのさらなる魅力化、地域・企業連携活動の強化、高等学校との接続の積極的提案をとめどなく行い志願者並びに入学者の回復を見込んでいる。【資料 12】

上述の 2 学科以外においてもすべての学科・専攻で競合校との比較や過年度の出願者の志望理由の分析を精緻におこない、教員とともに教育内容の魅力化および広報上の打ち出し方について検討している。これらの分析・検討結果を上述のすべての広報媒体に反映させ、高校生や保護者、高校教員などのステークホルダーに本学の魅力を丁寧に伝えて、継続的に学生を確保できるよう改善に努めている。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学が養成する人材像は、建学の精神「仏教精神に基づく女子教育」のもと、他者を配慮し、思いやる心を持ち、幅広い年代の人々の歯と口の健康と向き合い、地域住民の健康づくりを支援できる歯科衛生士である。ついては、歯科衛生士として必要な知識や技能を習得するとともに、一人ひとりの健康に寄り添える教養と態度を身につけることを基本としている。また、今後ますます加速する社会の少子・高齢化に対して、乳幼児から高齢者まで、人々の健康の維持・増進、病気の予防を口腔衛生の立場から支え、広く社会に貢献する力を身につける。そのために、3年間で習得すべき能力として、以下の4点を掲げる。

- i. 少子高齢社会の多様な口腔保健ニーズに対応する歯科予防処置・歯科診療の補助・歯科保健指導を行う知識および基本的技能を有する。
- ii. 乳幼児期から高齢期までの歯科疾患の予防と口腔衛生の向上を図り、仏教精神による思いやりの心を持ち、地域住民の健康増進を支援することができる。
- iii. 医療・保健・福祉等の多職種とチーム連携を行うための、高い知識とコミュニケーション力を持って協働・協力することができる。
- iv. 地域社会が抱える健康課題に対し、口腔衛生の観点から課題に取り組み、歯科衛生士としての職業倫理感と責任感をもって課題解決に向けて取り組むことができる。

さらに、本学では、多職種連携、教養とコミュニケーション、歯科・口腔エキスパートによる指導について、次の3点を人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的とする。

- i. 京滋地区トップクラスの医療・福祉分野の専門職養成の幅広さを生かした多職種連携教育を行い、他学科の学生との相互理解を深めて、社会のニーズに幅広く応えられる人材を育成する。
- ii. アクティブ・ラーニングを取り入れた主体性を育む学び、コミュニケーション力を強化する学びで、複雑で変化が早く、先が見えないといわれる現代社会で活躍できる教養とコミュニケーション力を養う。
- iii. 歯科衛生士国家試験合格のための指導はもちろん、小児歯科、咀嚼、口腔外科などを専門分野とする研究力の高い教員による専門的な学びを通して、口腔保健の専門家としての基礎をつくる。

(2) 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

① 歯科衛生士の必要性

歯科衛生士は「歯科予防処置」「歯科診療の補助」「歯科保健指導」の3つの業務で、子どもから高齢者まで、すべての人々の歯・口腔の健康づくりをサポートする国家資格の専門職とされており、歯・口腔の健康づくりを通して、人々の健康な生活を支える歯科衛生士の活動に大きな期待が寄せられている。特に、人々の健康志向の高まりと歯科医療へのニーズが高度化・多様化する中、より高度な専門性と幅広い教養を身につけた人材が求められるようになってきている。そのような歯科衛生士の必要性として、次の3点があげられ

る。

i. 歯科予防措置

人が歯を失う原因の多くが「むし歯」と「歯周病」である。歯科衛生士は、「フッ化物塗布」等の薬物塗布、口腔内の汚れ（歯垢・歯石など）を専門的に除去する「機械的歯面清掃」などといった医療技術で歯科の二大疾患を予防し、歯の健康を保つ。

ii. 歯科診療の補助

歯科診療は、歯科医師を中心とした「チーム医療」として行われる。その中で、歯科衛生士は歯科医師の診療補助や歯科医師の指示を受けて歯科治療の一部を担当するなど、歯科医師との協働で患者さんの診療を行う。

iii. 歯科保健指導

生活習慣病であるむし歯や歯周病は、治療よりも予防や生活習慣の改善が必要とされ、そのための専門的な支援（指導）が不可欠とされる。歯科保健指導は、幼児から高齢者までの年代を問わず、すべての人に必要な支援であり、歯科衛生士は歯・口腔の観点から人々の健康の維持・増進、病気の予防を担っている。

② 歯科衛生士の需要

歯と口が健康であることは、何でも噛んで食べることができ栄養バランスの良い食事につながる。また、食べる楽しみを十分に味わうことができる。こうした点からも、歯科疾患を予防し、咀嚼・嚥下する機能を正常に保つことが健康寿命を延ばすうえで重要であると考えられている。

超高齢化社会の到来に伴い、入院患者や通院困難な在宅療養者への対応など、介護老人施設や地域包括支援センターなどと連携した地域包括ケアシステムの中での歯科医療サービスの提供体制の構築が課題とされている。これからの歯科衛生士は、歯科診療所等における歯科疾患への対応のみならず、チーム医療や在宅歯科医療等において、他の職種との橋渡しを行うコーディネーターとしての役割も期待されている。また、歯のホワイトニングや歯列矯正で口元をきれいに見せる審美歯科や、歯を失った場合に人工歯根を顎の骨に埋め込み、それを土台に人工歯を取り付けるインプラントなど、様々なニーズに応え、対応できる歯科衛生士が求められている。そのような歯科衛生士の需要として、次の3点をあげる。

i. 歯科衛生士は、生涯を通じて歯の健康づくりや口腔ケアを支援するため、保育所・幼稚園、学校、保健所・市町村保健センター、企業など活躍の場が広く、介護老人保健施設、居宅など、地域でもその活躍は期待され、生涯を通して活躍できる「国家資格」といえる。

ii. 歯科衛生士の勤務先として最も多いのは歯科診療所で、次いで病院・市区町村・介護保険施設の順に多く、多様な働く場がある。求人倍率も安定しており、多くの歯科診療所が歯科衛生士を求めており、社会的ニーズが高いといえる。

iii. 歯科衛生士は一般的に夜勤なく、歯科診療所は19時ごろに診療を終えることが多い。急患対応などもあるが、勤務時間は比較的安定しており、プライベートな予定を立てやすい職業といえる。（『令和2年歯科衛生士の勤務実態調査報告』公益社団法人 日本歯科衛生士会.2020）

③ 歯科衛生士の社会的、地域的な人材需要の動向

歯科衛生学科の「設置の趣旨等を記載した書類（3P）」に記載した通り、わが国の現代社会のさまざまなニーズに応えるためには、コミュニケーション教育などの医療に必要な教養教育を実施し、歯科衛生学科以外の医療系学部を有してチーム医療教育が可能な大学あるいは短期大学での教育が望ましい。しかしながら、近畿地区には、歯科衛生学科を有する大学は4校でその内1校は令和5年4月開設予定で、短期大学は2校のみで、特に本学科が開設予定の京都府及び隣接する滋賀県や奈良県には、歯科衛生士を養成する大学や短期大学は1校もないのが現状である。また、京都府には歯科衛生士を養成する専門学校も3校あるのみで、歯科衛生士の養成機関が15校ある大阪（大学3校、短期大学1校、専門学校11校）に比べはるかに少ない。したがって、京都府には歯科衛生士の十分な供給体制が整っていないと考えられる。このような状況のもと、本学「歯科衛生学科」の人材需要の見通しを検証するため、人材需要アンケート調査を実施した。結果として、次の3点のとおり、社会的・地域的な人材需要があり、地域医療への貢献と人生100年時代に向けた地域の皆様のニーズに応えることができると言える。

a. 回答元の基本情報

本アンケート調査に対し、京都光華女子大学短期大学部の地元・京都府をはじめ、隣接する大阪府の歯科医院・デンタルクリニックを中心に、歯科関連の保健・医療機関、企業など歯科衛生士の就職先として考えられる施設等、計262箇所より回答を得た。

歯科衛生学科が開設予定の京都府および隣接する大阪府を中心とした地域の歯科クリニック等262箇所より回答を得た。回答元の所在地（グラフ1）としては京都光華女子大学短期大学部の地元「京都府」181箇所（69.1%）が最も多く、隣接する「大阪府」65箇所（24.8%）の他、「兵庫県」6箇所（2.3%）、「滋賀県」5箇所（1.9%）、「和歌山県」3箇所（1.1%）、「奈良県」1箇所（0.4%）等であった。回答元の種別（グラフ2）としては「歯科医院・デンタルクリニック」211箇所（80.5%）次いで「病院」16箇所（6.1%）、「その他」14箇所（5.3%）、「歯科関連企業・メーカー」13箇所（5.0%）、「保健所・保健センター（地方自治体）」7箇所（2.7%）であった。

b. 回答元における歯科衛生士の勤務状況・充足状況

歯科衛生士の勤務人数は225箇所ですべて合計798名、1箇所平均3.5名。回答元の6割を超える163箇所（62.2%）が歯科衛生士は「不足」との認識を示す。

回答元における歯科衛生士の勤務状況については、アンケート返送を得た262箇所中225箇所が具体的な勤務人数を示した（34箇所は「勤務なし」、3箇所は無回答であった）。225箇所における歯科衛生士勤務人数を合計すると798名で、1箇所あたりの平均人数は3.5名であった（グラフ3）。歯科衛生士の充足状況（グラフ4）については、「大きく不足している」57箇所（21.8%）、「やや不足している」106箇所（40.5%）であった。

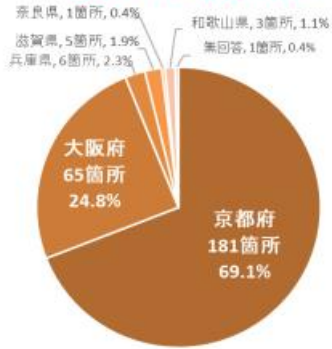
c. 歯科衛生学科が養成する人材について

京都光華女子大学短期大学部「歯科衛生学科」が養成する人材の社会的ニーズについて、9割超の240箇所（91.6%）が認める結果。

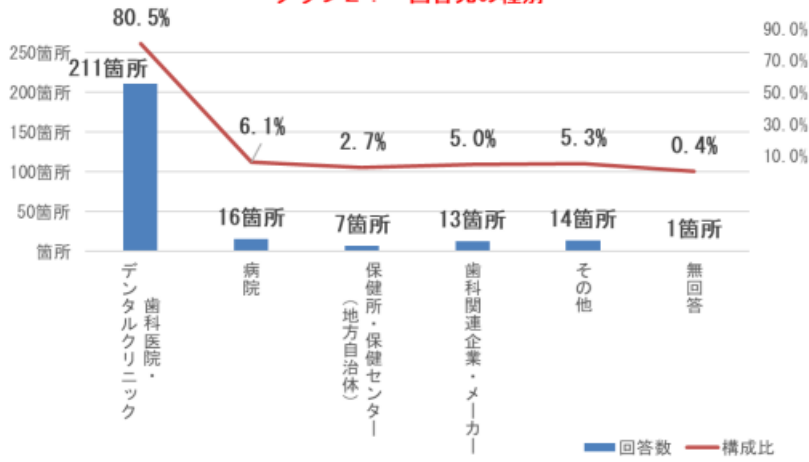
「歯科衛生学科」が養成する人材について、6割を超える172箇所（65.6%）が採用意向を示し、採用可能人数は卒業見込人数80名を大きく上回る282名。

京都光華女子大学短期大学部が設置構想中の「歯科衛生学科」の概要を示した上で、養成する人材の社会的ニーズ、各回答元における採用意向について回答を求めた。社会的ニーズ（グラフ5）については「ニーズは極めて高い」154箇所（58.8%）、「ニーズはある程度高い」86箇所（32.8%）で、合計すると約9割の240箇所（91.6%）が本学科の社会的ニーズは高いとの認識を示した。さらに採用意向（グラフ6）については全体の6割を超える172箇所（65.6%）が「採用したい」とし、その上で提示された採用可能人数（グラフ7）は、卒業見込人数（入学定員）80名を大きく上回る合計282名であった。

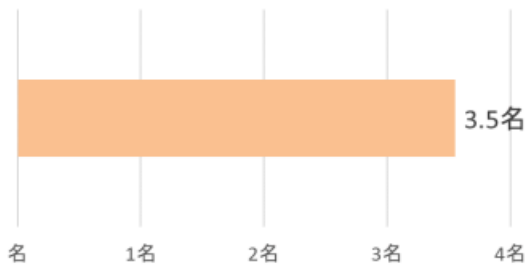
グラフ1：回答元の所在地



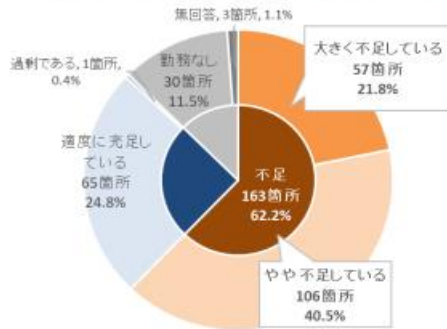
グラフ2：回答元の種別



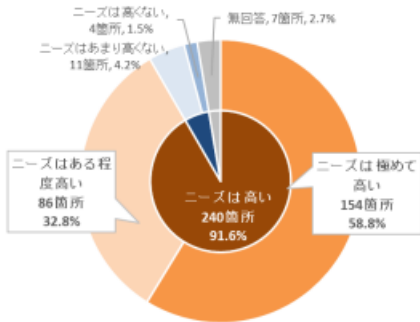
グラフ3：1箇所平均の歯科衛生士勤務人数



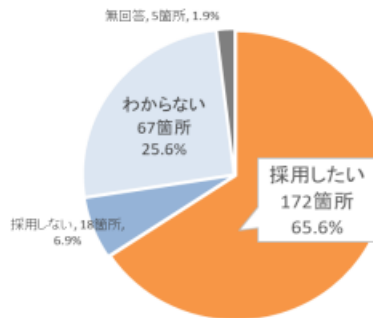
グラフ4： 歯科衛生士の充足状況について



グラフ5： 京都光華女子大学短期大学部
「歯科衛生学科(仮称)」
社会的ニーズについて



グラフ6： 京都光華女子大学短期大学部
「歯科衛生学科(仮称)」
養成人材の採用意向



グラフ7： 京都光華女子大学短期大学部
「歯科衛生学科(仮称)」
養成人材の採用意向

